

日時 校時 クラス	教科	単元名・題材名
6月3日 6校時 4年2組 29名	学級活動(2) 人間関係形成	「ともだちとの関わり方を考えよう」花子、太郎、梅子のトラブル ～わたしなら、どうする?～
本時のねらい	<b>自分の思いや立場をもち、友達と伝え合いながらよりよい関係を築こうとする</b> 友達同士のトラブルの事例をもとに、当事者の立場に立って考える。そのことで、思いや考えを伝えることの大切さに気づき、自分の考えを適切に表現しようとする態度を育てる。	
評価規準 【評価方法】	課題の状況を自分事として捉え、自分なりの立場や理由をもち、他者と関わりながら考えを深めようとする姿が見られる。	
展開	内容	◇留意事項 ★見取りの視点 ◎主体性
導入 ( 3 分)	①これまでの学級での出来事を想起する。	◎写真や動画を使い、自分事として捉えることで、本時の内容に主体的な気持ちを促す。
課題の設定 ( 3 分)	②三者間のトラブルの事例を知る。 <③状況> 花子が「最近変わっちゃったよね。」と太郎に言う。それを聞いた太郎が「花子が悪口を言っていたよ。」と梅子に言う。それを聞いて怒った梅子は花子に「花子！なんで私の悪口を言うのよ！」と詰め寄る。	◇学級のどの児童にもわかるようにゆっくりと、説明する。 ★内容を把握できているか、教師が見取りながら、状況を説明する。理解していない場合は、「隣と相談」や「あらすじの確認」、または再度、教師からの説明を行う。  ◇決して、3人の中で誰が悪いかを決めることが目的ではない。それぞれに立場を決めて、自分の意見や考えを相手に伝えることが目的である。 ★決めかねている児童がいたら、「今の段階でいいんだよ。」「あとで変わっても構いません。」と伝える。
	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 10px auto;">             この3人の中で発言がいちばんよくないのは誰ですか？           </div>	
自力解決 ( 6 分)	④自分の考えをプリントに書き込む。 <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 10px auto;">             自分の意見を書きましょう。           </div>	◎一度、自分の考えを出力させることで、内容が整理される。内部情報がたまり整理された自分の言葉は、自然と相手に伝えたいくなる。 ◇書くことが難しい子は、教師が例示を示す。その人数が多い場合は、全体に行く。少ない場合は、個別に行く。周りの友達が書いた内容を読み上げるか、教師が説明するか。その場による。 ◎教師が赤えんぴつで丸を付ける。そのことで、発表が苦手な児童に自信を付けさせる。
集団解決① グループ ( 6 分)	⑤花子派、太郎派、梅子派と全体の分布を取る。 <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 10px auto;">             今の段階の意見を確認します。           </div>	◎分布を取ることで、自分の考えに対して友達がいることが分かる。そのことで、安心して取り組めることができる。 ◎同じ意見同士の子供なので、考えが似ている。さらに10人前後の少人数なので、全体よりも発表が

	<p>⑥それぞれ同じ意見同士のグループで、考えや意見を確認する。</p> <p>グループごとに話し合いをします。</p> <p>※自分の意見を続けて書きたい子は、そのまま書かせる。</p>	<p>易しくなる。</p> <p>★教師は、それぞれのグループに行き、進行状況を確認する。意見が活性化していないところには、教師が介入し助言する。</p>
<p>集団解決② 全体 (20分)</p>	<p>⑦全体で討論する。</p> <p>そろそろ全体で話し合いませんか？</p> <p>⑧全体の分布を再度取る。</p> <p>最終ジャッジです。～さんだと思う人？</p>	<p>◇大多数の意見に飲まれやすいため、意見の少ないグループから発表させる。(時と場合によるが)</p> <p>◎全体を教室の中心に向けさせる。そのことで、互いの顔を見合って話ができる。(私のクラスでは「国際会議」と呼んでいる。)</p> <p>◇子供たちには、「多様な考え」に触れさせる。教師は極力介入しない。</p>
<p>価値の共有 (5分)</p>	<p>⑧感想(意思決定)する。</p> <p>今日、学んだことを書きましょう。「これから」という言葉が書いてあるといいですよ。</p>	<p>◇書けない児童への支援のために、早く書いた子に発表させる。そのことで、書けていない児童のサポートとする。</p>
<p>振り返り (2分)</p>	<p>⑩教師のフィードバックを伝える。</p> <p>⑪OPPシートに記入。</p>	<p>◎学級内に波及させたい司会言葉や、リアクションなど、よくできていた児童を取り上げ褒める。</p>

学習活動案 進行表

担当者 T.Y.

## 研究主題 児童の主体性の育成 ～児童が主体となる「学習時間」の創出～

主体的な状態とは、「遊びに夢中になっている時の姿」。(全体研究会)

「遊びに夢中になっている状態」とは、**活発に自分の意見を言ったり、聞こうとしたりしている状態。**

本時では、友達同士のトラブル事例(花子・太郎・梅子)をもとに、自分がどの立場に立つかを考える。そしてそれをもとに他者と意見を交流する活動を通して、「自分の考えをもつこと」「他者と関わること」の意味や大切さに気付くことをねらいとしている。

特に、以下の3つの視点から「主体性」を育む手立てとして位置付ける。

### ① 課題を自分事として捉える力

- ・導入で学級の実際の出来事や写真を提示し、子ども自身の生活と重ねながら自分事として感じさせる。

### ② 自ら意思決定する力

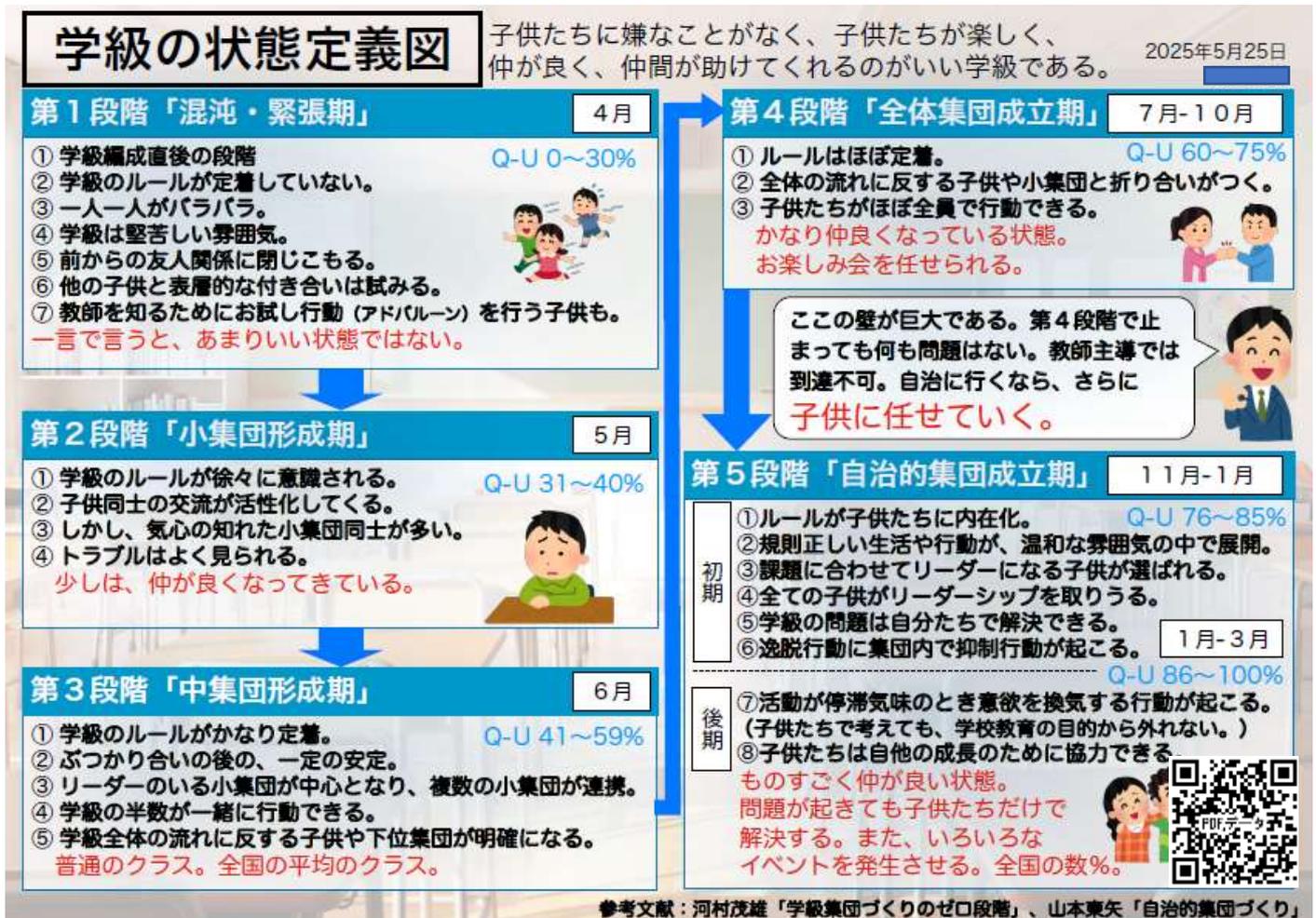
- ・三者の中でどの立場に立つかを自分で選び、その理由をワークシートに記述する。
- ・その立場が変わってもよいという前提のもと、自分なりの「考えの軸」をもとうとする。

### ③ 他者と関わり、対話を通して再考する力

- ・同じ立場の友達と小グループで話す中で考えを深めたり、異なる立場の意見を聞いて考えを広げたりする。
- ・「国際会議」と称した全体討論の中で、自分の意見を表明したり、友達の言葉に反応したりする姿を評価する。

## <学級の状態定義図>

今回の授業は、11月以降に目指す「自治的集団」の成立(=学級が自立的に課題解決や課題の創出を行える状態)を見据えた初期段階である。現在、学級は第2~3段階(小、中集団形成期)に位置しており、「他者と意見をぶつけ合いながらも、関係を壊さずに合意形成する力」を育てることを重視している。



## <考察方法>

今回は、「班集合型考察方法」(西留先生研究資料「備品237」より)という考察方法を、もとに考えた。

「班集合型考察方法」とは、

ペア(ちょっと相談)→個人→班での情報交換と考察→ワールドカフェ→班集合型考察→(班まとめ振り返り)をいう。

本時では、「課題の設定→個人→集団解決①(グループ)→集団解決②(全体)→個人(感想・意思決定)」と展開する。このような考察方法が、西留先生が記すように、「全員参加型の学びの考察」を目指す。

またホワイトボードを常に使える状態にしておき、子供たちが必要に応じて、自然に手を伸ばして使える環境を心掛ける。

